

Hop Step Jump

11

初任者研修第 11 回 児童生徒理解を深めるために③ アンケートの感想から

今回の講師は、大阪教育大学・水野治久教授。カウンセリング心理学、学校心理学を専門とされ、さまざまな児童生徒への支援、教師・保護者の支援についてなどの実践、研究をされています。また、Q-U や構成的グループエンカウンターなどについても実践的な研究を重ねていらっしゃいます。

本当にありがとうございました。心からこの研修を受けることができて良かったです。今ちょうど今日の話に出てきたような生徒が何名もあり、どうしたらその子が授業に参加できるのか、考えたいけどわからない、自分に力がない、時間がない、心のゆとりがない…と悩んでいました。大きなヒントとなりました。3連休の間にゆっくりと考えたいと思います。

今回の講義は多くの先生の心を軽くしたようです。日々、学校で悩んでいることを解決するための大きなヒントがありました。

パワーポイントのレジメを見ていて、ドキッとする点がいくつかありました。自分の日々の指導は厳しすぎるのではないか、子どもが伸び伸びできていないのではないか、子どもはきゅうくつすぎやしないか…そんなことを自問自答する今日この頃でした。一人ひとりの子どもを大切にしたい、毎日「今日だけは笑顔で過ごしたい」と思うもののできない自分に自信がなくなっていました。でも、今日の研修で、最近の自分を落ち着いて分析することができて、明日からはこうしてみようかな…と思える余裕ができました。本当にありがとうございました。(3時間くらいお話聞きたかったです)

ルールを重視して指導に当たるのが P (パフォーマンス) 型。援助を重視するのが M (メンテナンス) 型。大切なのは自分の傾向を自覚しバランスをとることです。自分の指導傾向がクラス集団の質に作用します。自分に足りない意図的に要素を取り入れることで、クラスがより良い集団に近づきます。PM 理論です。

色々な観点から、自分の“今”を振り返ることができました。今 2 年生の担任です。特に「私」メッセージはすごい効果的だなあと感じています。叱りつづけると自分の心が疲れるというか、帰りのバスでの後悔が続きますが、「私」メッセージはお互いにとってプラスだなあと感じます。できていないことも多いですが、できることから少しずつ、コツコツと積み重ねていきます。1 つずつ！

私メッセージ、さわやか自己主張、などとも言われますが、アサーション (非攻撃的自己主張) についての説明もありました。私を主語として感情を伝えることで、相手を攻撃せずに自分の意図を伝えます。私は、あなたが…してうれしい。私は、あなたが…して残念だ。そういったコミュニケーションのスキルを身に付けることで、お互いにとってプラスになる、お互いが楽になります。子どもたちも、保護者も、これから親になる人たちにも、みんなに持ってもらいたいコミュニケーションの「技」だと思います。

学級経営って難しいなと思っていましたが、「やり方が違う」ということを聞いて少し安心というか納得しました。私に合う方法、今のクラスの子どもたちに合う方法をどんどん見つけていきたいです。私のクラスにも感情をうまく説明できないので手が出てしまう子がいます。気持ちを代弁することを明日から取り入れていきたいです。

感情と言葉をつなぐことも大切な取り組みです。日本語には感情を表す言葉がたくさんあります。

うまくいったときこそ、反省を、という言葉が印象に残りました。行動分析を取り入れながら、日々の子どもたちを支援していきたいと思います。

私たちの仕事、うまくいかないときは人格まで否定されたような気になります。が、「やり方」が悪いだけなのです。だからこそ「やり方」を学ぶ必要があります。闇雲に試行錯誤し疲弊するのではなく、心理学や教育学の成果から、理論的に裏付けのある方法を試みたり、経験的に効果のある方法を試みるなど、しっかりと意図をもって試すことで、より意味のあるフィードバックを得ることが可能になります。そうすることで、「技」を身に付けるスピードも上がります。本研修、たくさんのキーワードが出てきました。調べてみてください。